



川越市立大東西中学校 学校だより

きらめき

令和7年7月8日発行
第4号
川越市立大東西中学校
校長 小川 潤也

学校教育目標 『豊かな心をもち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』

○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

言葉の重要性を考える

校長 小川 潤也

こここのところの気温を見ると、最高気温が35度以上の「猛暑日」が続いています。梅雨明けが待たれるところです。今年度もあと10数日となりました。1学期の残りの日々が子供たちにとって充実したものになるよう、今学期のまとめをしっかりとしていきたいと思っています。保護者、地域みなさま、最後までご協力をお願いいたします。

先日、本校の家庭教育学級で「大東西中学校の教育について」というテーマにお話をさせていただく機会がありました。参加していただいた保護者の皆様には、日頃感じている悩み、貴重な意見や感想等を聞かせていただきました。大きなテーマではあったのですが、その中で、思春期の子供に対する言葉かけについて、自分の担任の時の経験を踏まえてお話をさせていただきました。

4月から本校の子供たちと学校生活を送らせていただき、人間の話す言葉には、大きな力があると改めて感じるようになりました。言葉は、使い方によって、宝石より貴重な物にもその逆にもなると言われ、人間だけがもつ不思議なアイテムです。日本では古くから『正しい心で、正しい言葉を使うことによって、正しい行いができる。』という伝統的な考え方がありました。これを言霊（ことだま）といいます。言葉には命（魂）が宿っていると信じ、使い方一つで人生をも左右するほどの大きな力があると考えられてきました。幸せの絶頂から、心ない一言で落胆してしまう、もうだめだとあきらめかけた時に、周囲からかけられた温かい励ましの一言で元気を取り戻す等の経験は、誰にでもあると思います。下の言葉は、テレビなどにも多く出演している北原照久さんの作とされていますが、今は、多くの著名な方々が使っています。子供たちは、やさしく温かい言葉を聞くことで、やさしく温かい心を持つようになります。（もちろん、子供に正しい行動を教えるために、厳しくすることは必要なこともあります）私たち大人は、子供たちが、元気になるように温かい励ましの言葉をかけて、子供たちに聞かせ、自信がもてるようにしてあげたいものです。

昨今、日本語の乱れが指摘され、私たちの日常生活の中にもそのことが表れてきています。私も言葉を使う時は、十分に気をつけていきたいと考えていま

す。学校でも「その一言の重み」を再認識するとともに、子供たちに場に応じた適切な言葉遣いを指導していきたいと思っています。保護者、地域みなさまにも、発する言葉の大切さ、子供たちの話すなげない言葉にも関心をもっていただけるとありがたいです。私たち大人が率先して言葉の力を上手に使い、子供たちを健やかに育てていければと思います。

「人の身体は、食べたもので作られる」

「人の心は、聞いた言葉で作られる」

「人の未来は、話した言葉で作られる」

【校長室より】

7月5日（土）PTA主催の第一回資源回収が行われました。保護者、地域の方々のご協力により、大量に集めることが出来ました。ご協力に感謝申し上げます。なお、第2回資源回収は11月29日（土）に実施予定です。よろしくお願いいたします。